

2022年8月17日
株式会社東陽テクニカ

**「第24回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー／
国際水産養殖技術展」に出展**
～水産資源調査・海面養殖・陸上養殖に関する計測ソリューションを出展～

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役社長：高野 俊也、以下 東陽テクニカ)は、2022年8月24日(水)からの三日間、東京ビッグサイトで開催される「第24回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」と同時開催の「国際水産養殖技術展」に出展いたします。(ブース番号：B-50)

東陽テクニカのブースでは、水産・養殖の現場で役立つ計測ソリューションとして、高精度2周波音響カメラ「ARIS Explorer」、小型マルチビーム測深機「Sonic2020」、ポータブル・デジタル計量科学魚群探知機「DT-X Extreme」などを中心に展示、ご紹介いたします。

◆出展お知らせページ：<https://www.toyo.co.jp/kaiyo/seminar/detail/sf2022>

【 イベント概要 】

- 開催展名：第24回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー 国際水産養殖技術展
- 会期：2022年8月24日(水)～8月26日(金) 10時～17時(最終日は16時まで)
- 場所：東京ビッグサイト 東展示棟 (ブース番号：B-50)
- 公式サイト：<https://seafood-show.jp/japan/aquaculture/>

【 主な展示製品 】

- 高精度2周波音響カメラ「ARIS Explorer」(米国 Sound Metrics 社製)
超音波により高分解能の水中映像撮影が可能な DIDSON 音響ビデオカメラの後継モデル。光学カメラでは撮影困難な濁水中や夜間での使用に有効です。



「ARIS Explorer」

- 小型マルチビーム測深機「Sonic2020」(米国 R2 Sonic 社製)
約16cm立法のキューブスタイルの超小型ソナー。従来困難であったゴムボートや小型ボート、水上バイクへの艀装や小型ROVやAUVへの搭載も可能です。浅海部のサンゴ礁の調査や沿岸域での藻場調査にも利用されています。



「Sonic2020」(筐体組み込み)

● **ポータブル・デジタル計量科学魚群探知機「DT-X Extreme」**
(米国 BioSonics 社製)

複数の送受波器の利用が可能なポータブルな計量科学魚群探知機。
送受波器は周波数を自由に選択(38kHz～1MHz)でき、コンパクトながら魚群エコーの周波数スペクトル計測により魚種推定の幅が広がります。



「DT-X Extreme」

● **水中画像改善ソフトウェア「SeaErra」(イスラエル SeaErraVision 社製)**

AI を使った水中映像の画像改善ソフトウェア。水中ビジョンをクリアにすることで、作業をより安全、より正確に行うことが可能になります。漁業、養殖、研究・海洋調査など幅広い用途があります。



「SeaErra」

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、1953 年の設立以来、最先端の“はかる”技術のリーディングカンパニーとして、技術革新に貢献してまいりました。その事業分野は、情報通信、自動車、エネルギー、EMC(電磁環境両立性)、海洋、ソフトウェア開発、ライフサイエンス、セキュリティなど多岐にわたります。5G 通信の普及、クリーンエネルギーや自動運転車の開発などトレンド分野への最新の技術提供に加え、独自の計測技術を生かした自社製品開発にも注力し、国内外で事業を拡大しています。最新ソリューションの提供を通して、安全で環境にやさしい社会づくりと産業界の発展に貢献してまいります。

株式会社東陽テクニカ Web サイト : <https://www.toyo.co.jp/>

★ **本件に関するお問い合わせ先** ★

株式会社東陽テクニカ 経営企画部マーケティング課
TEL : 03-3279-0771(代表)
Email : marketing_pr@toyo.co.jp

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。